

Special Essay

私と読書

重粒子線がん治療学講座 淡河 恵津世

「今、何をしたいですか？」と尋ねられたら、「公園のベンチで涼しい風にふかれてのんびりと本を読みたいです」と答えるでしょう。数年前、留学した異国の生活の中で、日本語に飢えていたかのように休日は公園で本を読んでいた。寂しかったけど豊かな時間だったと懐かしく思い出します。本を読むと想像力が養われ、ちょっとだけ成長するように思います。楽しいときには何も考えない雑誌でよいのですが、困ったとき、悩んでいるときには、よく本屋さんに行き、自分の方向性を見出せるような本を探し、読むようになっています。読んでいるときに答えが出ることもあるし、ずっと後になって分かることもあると思います。私の尊敬する MD Anderson Cancer Center の Komaki 先生はたくさんの本を読んでいらして、会うたびにちょっとだけいい話をしてくださいます。私は続きを聞きたくて、千夜一夜物語のように、また会いたくなるわけです。とにかく勉強や仕事の話や経験談に偏りやすいのですが、半分は仕事の話、半分は本や映画の話をされます。どこにそんな時間があるのだろうといつも不思議なのですが、一見仕事とは全く違う話をしていようですが、会話の印象は強くなるので、漠然とした仕事の話も生き生きとしたものになります。人の奥深さは、成功だけではなく、失敗とそれを解決できる柔軟さかな～と感じ、その柔軟さを磨いてくれるのは本を読むということではないかと思います。

最近、気に入っている名言は、連合艦隊司令官長だった山本五十六氏の言葉です。私は歴史の本は読みませんが、偶然に実家の父の本棚にあったもので、きっと今の自分に言い聞かせているような言葉を見つけたような気がしたのでしょうか。

「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

ひとりの人間が経験することは限られています。本を読んだり、映画を見たりすると、色々なことを疑似体験でき、物事の考え方に幅がでる気がします。最近、コンピュータの前ばかりに座っているので、いけないな～と思っています。花が咲いたり、山がきれいだったり、風が変わったりすることを感じながら、別世界の中に入り込める読書をしたく、公園の木陰で本を読みたいと夢みながら、電子カルテを眺める毎日なのです。